

通し番号	4938
------	------

分類番号	30-34-16-03
------	-------------

(成果情報名) 植物成長調節剤散布によるウンシュウミカン‘大津4号’の浮皮軽減	
[要約] ウンシュウミカン‘大津4号’にジベレリン3.3ppmとプロヒドロジャスモン25ppmの混用液を9月に散布することにより収穫期及び常温貯蔵用果実の浮皮を軽減できる。	
農業技術センター 足柄地区事務所	連絡先 0465-29-0506

[背景・ねらい]

地球温暖化による気象の変動に伴い、食味や貯蔵性を低下させるウンシュウミカンの浮皮の発生が全国的に問題となっている。ウンシュウミカンの浮皮軽減剤としてジベレリン (GA) 1～5 ppmとプロヒドロジャスモン (PDJ) 25～50ppmの混用散布が登録されているが、本県における主要品種‘大津4号’への適用技術は確立されていない。そこで、本混用散布の‘大津4号’への適用技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 9月上旬のGA3.3ppm・PDJ25ppm混用散布により、収穫期の着色遅延を抑制しつつ、浮皮が軽減される(図1)。
- 2 9月のGA3.3ppm・PDJ25ppm混用散布により、1月下旬までの常温貯蔵で浮皮軽減効果があり、3月上旬まで浮皮軽減効果を持続させるためには9月上中旬に散布する必要がある。いずれの散布時期においても貯蔵中に着色は十分に改善される(図1)。
- 3 収穫期の果実では、糖度に若干の差がみられたものの、酸度及び糖酸比に差はなく、果実品質に影響はない。また、常温貯蔵果実では、散布により減酸が緩やかとなり、糖酸比も無処理より低い傾向にあるものの、糖酸比は十分高く、散布による品質の低下は認められない(図2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本混用散布を行う前に必ず農薬登録内容を確認して使用する。
- 2 貯蔵の有無や貯蔵期間に合わせて散布時期を調節する必要がある。
- 3 樹上完熟を予定している果実に本混用散布による着色遅延がみられた場合は、貯蔵用へ切り替えるか、もしくは、着色が問題ない程度まで進んでから収穫する。なお、GA3.3ppm・PDJ25ppm混用の9月上旬散布による着色遅延については、収穫期を1～2週間程度遅らせることで改善されるとの事例がある(農研機構.2014.浮皮軽減のための技術情報(改訂版))。

[具体的データ]

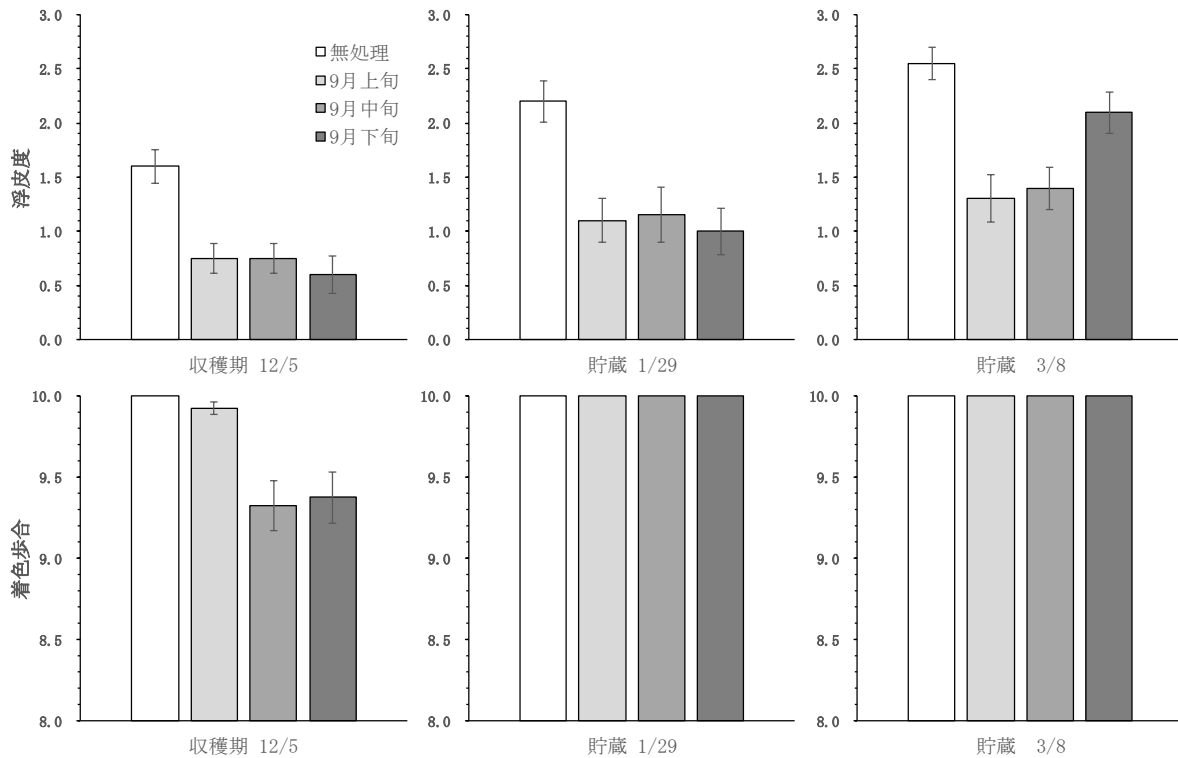


図1 GA・PDJ混用散布による収穫期及び貯蔵中の浮皮度、着色歩合の変移

図中の縦線は標準誤差を示す(n=20)

散布日：2018年9月6日、18日、28日 収穫日：11月29日

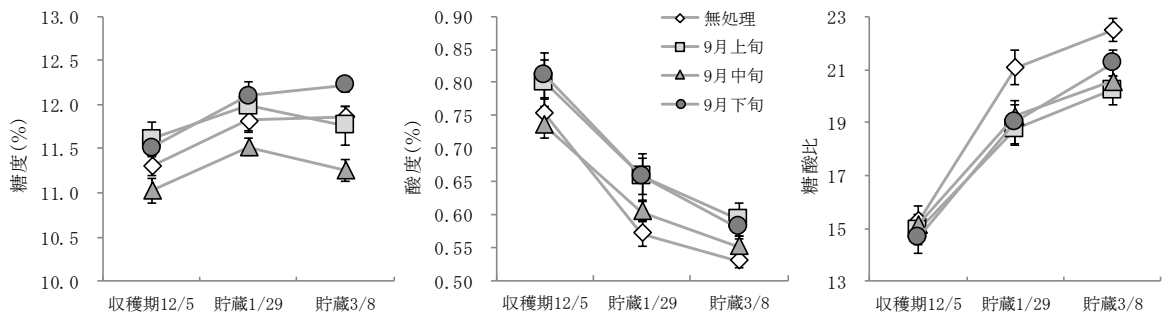


図2 GA・PDJ散布による収穫期及び貯蔵中果実の糖度、酸度及び糖酸比の推移

図中の縦線は標準誤差を示す(n=20)

散布日：2018年9月6日、18日、28日 収穫日：11月29日

[資料名] 平成30年度試験研究成績書(カンキツ)

[研究課題名] ウンシュウミカンの浮皮軽減技術による長期貯蔵

(ア)ジベレリンとプロヒドロジャスモンの混用散布時期が浮皮に及ぼす影響

[研究期間] 平成28～30年度

[研究者担当名] 渡辺 茂、中島 修、二村友彬、深澤智恵妙

[協力・分担関係]